

クラス番号	246	ゼミタイプ	サービスラーニング (NPO) 型
		担当教員名	藤井 渉
テーマ	障害のある人を支えることを通して学ぶ、市民社会の創造		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

障害のある人を支える活動は、草の根的に、名も無い人たちの手による市民活動として広がってきたものです。そして、いま、障害のある人が利用する福祉制度の多くは、草の根の市民活動が社会的に認められ、国の事業として制度化されてきた背景を持ちます。これは市民活動が障害者を含め、さまざまな人が暮らしやすい社会を創り出してきたと捉えることができます。

市民活動は NPO とも呼ばれ、民間の非営利組織のことです。NPO は、政府ではなく、市場でもない、自発性にもとづく参加がポイントになってきます。ちなみに、政府でもなく、市場でもない、また、家族などの親密圏でもない部分を市民社会と呼んだりします。その市民社会には、アドボカシー機能、サービス供給機能、市民育成機能があるとされます。(坂本治也編『市民社会論 理論と実証の最前線』法律文化社、2017 年)

よく NPO はサービス供給機能ばかりが取り上げられますが、このゼミでは、アドボカシー機能や、市民育成機能があることを振り返ることを意識して学びを深めてもらいたいと思います。

つまり、社会にある問題を発見し、問題を解決していくために社会に働きかけていくことであったり、みなさんが、このゼミに参加すること自体が、私たちにとって、市民社会の創造にとって意味のあることであったりすることを、理解できるようになることが目的となります。

障害のある人を支える NPO 現場から市民活動を知り、自身が市民社会の一員として社会に参加し、社会を創り、どう動かしていくことができるかを学びましょう。

授業計画：

4・7月 地域ニーズの把握・活動する NPO を決定・夏の活動を企画

8・9月 地域貢献活動 (5日間)

10・11月 活動のふりかえり (10月：活動先の方を交えて、活動のふりかえり会)・研究活動

12月 学校貢献活動の企画 (自分たちで何ができるかを考え、計画を立てる。)

12月 活動報告会、学習のまとめ (12月：報告会)

担当教員からのメッセージ



いま障害者福祉の現場で起こっている問題をできるだけマクロな視点から観察し、歴史に軸足を置きながらその改善に役立てる研究と教育を心がけています。歴史に軸足を置くということは、ものごとを時間軸で捉えることであり、過去を理解することで今何が起きているのか、今後どうなっていくのかが少しずつ見えてきます。そのようなある種の社会の「流れのようなもの」が見えてくると、自分だったらどう働きかけて、軌道修正を図っていくのか、その具体的な実践内容についてじっくりと腰を据えて考えることができるようになります。それを知ってもらえることで、少しでも社会に対して主体的に向き合えるための一助になればと期待しています。